

日本におけるオーストリッチ飼養管理 実践マニュアル

— 平成 21 年度ダチョウ安定生産体制構築推進事業成果 —



平成 22 年 3 月

日本オーストリッチ事業協同組合

【表紙説明】

写真 左上 . . . 健康で良質な初生雛
右上 . . . 健康な幼雛（2週齢）
下 . . . 手前；出荷適齢期を迎えた育成オーストリッチ（10ヶ月齢）
奥；繁殖用雌雄ペア（左；雄、右；雌）

は し が き

日本で本格的にオーストリッチが飼育されて10年以上経つが、未だ経営が順調でないところが多く、その主原因は飼育技術が手探り状態で苦勞しており、畜産のレベルにまでなかなか達していないところにある。筆者は以前よりオーストリッチの飼育方法についてまとめて書くように事務局より依頼され、書くための材料集めをして構想は長く練っては来ているが、なかなか自信を持って書くという決心がつかないまままで今日まで来た。

このたび、日本オーストリッチ事業協同組合が農林水産省の協力により財団法人全国競馬・畜産振興会からの中小家畜生産技術向上対策事業を受け、平成20年度から3ヶ年間「ダチョウ安定生産体制構築推進事業」の実施をするところとなり、平成21年度の成果として飼育方法をまとめて書くよう要請を受け、オーストリッチ飼育者に分かりやすい「実践的マニュアル」として作成したのが本書である。オーストリッチ飼育技術は大きく分けると、南アフリカで発達した技術と、南アフリカ以外のイギリス、ドイツ、アメリカ、カナダ、オーストラリア等で発達した技術が日本に個別に入ってきているが、本書は日本で実際に行われうまくいっている技術の紹介になるようにした。

本書を作成するに当たりその特徴を述べると、1) オーストリッチ飼育技術の普及を試みている経験からすると、オーストリッチが乾燥した環境を好む砂漠動物で、草食動物であるということを理解していないため、実際の飼育技術の意味がよく理解されずにいることを考慮し、まず最初に「オーストリッチ飼育の基本理念」を作成し、畜産の理念としたこと、2) ビタミン・ミネラルの説明をして、実際に飼育者が個々のビタミン・ミネラルをご自身で配合するよりは、最新の知識と実績があるものをプレミックスとして提供した方が飼育者の利益につながるの経験から JOC ビタミン・ミネラルプレミックスを作成し、そのプレミックスを使うことを前提としたこと、3) スターター飼料は摂取量も少なく、配合率も草食動物として特殊であり、自家配合よりも配合飼料としての提供の方が飼育者の利益になるとの考えから JOIN スターター飼料の使用を前提としたこと、4) 餌付けは孵化5-7日齢で行い、4ヶ月齢までは飼料は自由摂取で行わないと十分な成長が出来ないので、その点を強調したこと、などがある。孵化を試みられている方も多く、孵化についても記述したかったが別の機会にすることにした。まだまだ不十分な点はあると思うが、皆様のご指摘により今後修正していきたい。

最後に、本マニュアルの作成及び編集にあたって、本事業推進委員会並びに専門委員会委員の方々には多大なご尽力をいただき、また各地のオーストリッチ飼養生産事業者の皆様には実態情報収集のための現地調査にご協力をいただきました。末尾ながら深謝を申し上げます。

平成22年3月

実践マニュアル編集委員会
委員長 奥村 純市

編集委員会委員 (敬称略)

奥村 純市 (委員長) 名古屋大学 名誉教授 日本オーストリッチ協議会 会長
小久保 謙 日本オーストリッチ事業協同組合 理事長
豊原 弘晶 日本オーストリッチ事業協同組合 専務理事

執筆者 (敬称略)

奥村 純市 名古屋大学 名誉教授 日本オーストリッチ協議会 会長
オーストリッチ飼育の理念、オーストリッチの特性
I、II、III. ②給餌、I. ③飲水、I. (1) ④糞尿、IV. 付録1

三好 俊三 帯広畜産大学 名誉教授
II. ②実際の配合例

児玉 洋 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授
I、II、III. ⑤衛生・防疫

斎藤 俊之 鳥取大学農学部獣医学科 准教授
オーストリッチの特性、I、II. ⑥、III. ⑦日常で発生する事故・病気

竹原 一明 北里大学獣医学部 准教授
オーストリッチの飼育理念、I、II、III. ⑤衛生・防疫

大原 睦生 北海道立畜産試験場 元主任研究員
II、III. ②実際の配合例

小久保 謙 日本オーストリッチ事業協同組合 理事長
オーストリッチ飼育の理念、I、II、III. ①飼育環境
I. (2)、II、III. ③飲水、④糞尿、II、III②実際の配合例、III. ⑥産卵

川口 達男 日本オーストリッチ事業協同組合 副理事長
III. ②実際の配合例、⑥産卵

豊原 弘晶 日本オーストリッチ事業協同組合 専務理事
IV. 付録2

平成21年ダチョウ安定生産体制構築推進事業推進委員会委員 (敬称略)

奥村 純市 名古屋大学 名誉教授 日本オーストリッチ協議会 会長
紺野 耕 日本獣医生命科学大学 名誉教授 アニマルインターカレッジ 学校長
竹原 一明 北里大学獣医学部 准教授
大原 睦生 北海道立畜産試験場 元主任研究員

平成21年ダチョウ安定生産体制構築推進事業専門委員会委員 (敬称略)

奥村 純市 名古屋大学 名誉教授 日本オーストリッチ協議会 会長
三好 俊三 帯広畜産大学 名誉教授
児玉 洋 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授
斎藤 俊之 鳥取大学農学部獣医学科 准教授

— 目 次 —

はしがき	
オーストリッチ飼育の理念	1
オーストリッチの特性	1
I. 育雛 (1) 前期 ; 0-4 週齡	
① 飼育環境	5
② 給餌 (飼料)、③ 飲水、④ 糞尿	8
⑤ 衛生・防疫	12
⑥ 日常で発生する事故・病気	16
(2) 後期 ; 1-4 ヶ月齡未滿	
① 飼育環境	20
② 給餌 (飼料)、③ 飲水	22
④ 糞尿	24
⑤ 衛生・防疫	24
⑥ 日常で発生する事故・病気	25
II. 育成 (4-12 ヶ月齡)	
① 飼育環境	27
② 給餌 (飼料)	29
実際の配合例	32
③ 飲水	34
④ 糞尿	35
⑤ 衛生・防疫	35
⑥ 日常で発生する事故・病気	37
III. 成鳥 (雌雄) (1) 繁殖前、(2) 繁殖期 ; 産卵期、休産期	
① 飼育環境	38
② 給餌 (飼料)	42
実際の各地の配合例	46
③ 飲水	49
④ 糞尿	49
⑤ 衛生・防疫	50
⑥ 産卵 (種卵取扱い、採卵方法等)	51
⑦ 日常で発生する事故・病気	52
IV. 付録	
1. 標準の日齡と成長体重および体高	54
2. 法的な手続きと対処	55
あとがき	61